

在籍学級での学びにつなげる 先行学習としての 「教科と日本語の統合学習」

群馬県教育委員会 義務教育課
人権・キャリア教育推進係
指導主事 亀安 正朗



**限られた「取り出し指導」の時間
教科学習をどこまで行うのか…
もちろん全てはできない…**



**全てを行うのではなく、
「ここがわかると全体が見える」
「ここができると自信につながる」
ポイントを見つけて精選して行う**



「完全な理解」をねらうのではなく、 大きな目的

在籍学級での学習に参加できる力や日本語で考える力を養う
将来のキャリア形成につなげる、など

を見据えながら 柔軟に選択判断して学習を組み立てる



「教科と日本語の統合学習」 ポイント

- ①情報を分かりやすく
- ②教科学習参加のために
必要な日本語への気付き
- ③学習の見通し



①情報を分かりやすく

視覚化



1人1台端末の活用

(具体を表す写真やイラスト、
動画等の提示)

学習者用デジタル教科書の活用

ルビ振り・文字拡大・

分かち書き・音声読み上げ

読み上げ箇所のハイライト等の機能

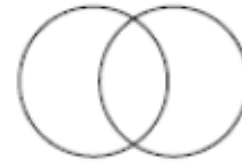
情報を分類して色分けして提示 等



文の組み立てを考えると分かりやすい文章になる！

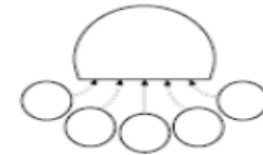
【ベン図】

情報を比較・分類して
整理する際に活用



【クラゲチャート】

理由付ける、関係付ける、
要約するなどの際に活用



思考ツール

(チャートシート)

等の活用

The screenshot shows a digital textbook page with a text passage about a mountain. The text is divided into sections: 始め (Start), 中 (Middle), and 終わり (End). The text is highlighted in various colors (red, blue, green, yellow) to indicate different parts. A sidebar on the right contains navigation and analysis tools, including a search bar, a list of sections, and a section for '自分の考え' (My thoughts). The text in the passage is as follows:

始め 中 終わり

始め 終りに分ける
青木さんが書いた文章

一つ目は、高い所に登ると景色がよくて気持ちがいいからです。遠くを見わたすとすがすがしい気持ちになります。山のてっぺんて、お弁当を食べたり、写真を撮ったりするのは気持ちがいいと思います。

二つ目は、山には木かげがあつてすずしからず。夏は気温が高くて、体がつかれやすいです。山で遊んだり、登ったりしてかれたときには、木かげで休むことができます。

三つ目は、たくさん植物や昆虫に出会えるからです。夏にさく山の花や、この辺りにはいない昆虫の写真を撮ることもできます。もしもありません。

最後に自分の考えをまとめて書く

次に、それぞれの理由(から)を段落に分けて書く

それぞれの理由(から)の後に、それだけの理由(から)を書く

①情報を分かりやすく

まずは
スモールステップで! **焦点化**

大事なポイントだけに絞って提示

30円のチョコレートと60円のチョコレートがあります。
合わせて10個買いました。510円でした。
それぞれ何個買いましたか。

①問われていることを理解

払うお金→代金
合わせて計算→合計

②原文の言葉を理解

30円のチョコレートと60円のチョコレートを合わせて
10個買ったら、代金の合計が510円でした。
30円のチョコレートと60円のチョコレートは、
それぞれ何個買いましたか。

③理解できたら原文を読み直す



①情報を分かりやすく

体験化・動作化



いつも遊んではかりの息子が、自ら進んでおつかいを手伝ってくれたことに、母は涙を流して感動した。

役割演技等、動作を交えて言葉や文への理解を促す

①情報を分かりやすく

具体→抽象

実際にやってみる ← 説明や解説

ではなく、



具体や体験 → 説明を受ける
考える

具体的 → 抽象的



→ 画家

× (教師) 「画家というのはね…」

○ (教師) 絵を提示 → (子供) 「○○だ」

→ (教師) 「この人、画家」



「教科と日本語の統合学習」

ポイント

- ①情報を分かりやすく
- ②教科学習参加のために
必要な日本語への気付き
- ③学習の見通し



教科学習参加のために必要な日本語とは

「順序立てる」

順序 順番に並べる
はじめに～ 次に～ 最後に～
など

「比較する」

比べる ～が違う どちらが～
○○より□□のほうが～
など

「分類する」

分ける 仲間 グループ 探す 集める
○○と□□は～が同じ 共通点は～
○○と□□は～が違う 違いは～
など

「関係づける」

つなげる 関係づける 理由づける
など

「推論する」

もし～ならば、～だろうと思う
おそらく(多分)～だろう
など

など、思考する際に使う言葉



②教科目標達成のための 日本語への気付き

教科学習参加のために必要な
日本語を整理しておく

「日本語」を落とし込む

活動の局面において、その状況を子供たちと

共有した後に「日本語」を伝える。 **具体→抽象**

言葉と意味が
つながった！

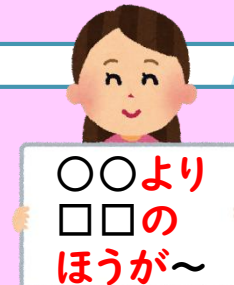


強調して伝える

気付かせたい「日本語」の部分だけ大きな声にしたり、

フラッシュカード等で示したりして「気付き」を促す。

そう、
「比べる」
のですね



②教科目標達成のための 日本語への気付き

教科学習参加のために必要な
日本語を整理しておく



気付いた「日本語」を使わせる

活動の局面において、その状況と照らし合わせながら「日本語」を使わせる。

学んだ日本語
で話してみよう。



間違いに暗示的に気付かせる

(例) 子供：アリとゾウ、ゾウ大きい (リキャスト)

教師：そうなんだ。ゾウはアリより大きい…のだね。

間違いを指摘することなく会話の流れを壊さない
情意的な配慮で日本語を話そうとの意欲を促すことが大切



日本語の学びに焦点を当てる

ただし、あくまで目的は「教科の学び」
日本語の学びに偏りすぎると、
焦点がぼやけることもある



教科の目標 **日本語の目標**

それぞれを明確に!



「教科と日本語の統合学習」

ポイント

- ①情報を分かりやすく
- ②教科学習参加のために
必要な日本語への気付き
- ③学習の見通し



③学習の見通し

挿絵・写真・イラスト・動画等で直感的な内容理解を促す

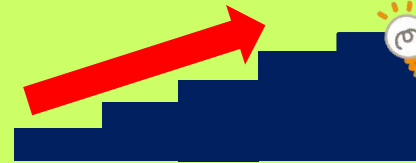
物語文の「**絵本**」の挿絵や、**1人1台端末**で検索した写真やイラスト、動画等を活用



子供の分からない言葉や内容を確認し、**理解支援**を行う

対話の中からスモールステップで発問する
学習課題に迫りながら、徐々に「発問」を**焦点化**していく
ことで、子供がポイントをしばって思考できるように支援

理解が難しい発問
子供にとって高い壁



段階を追った
補助発問や助言で
子供の発話を促す



見通しを持たせる

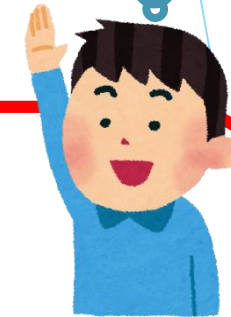


学習の概要をつかませる

何を考えれば
よいのかが
分かったわ。

自信を持って
発表できそう
だぞ。

先行学習の大きな役割



あらかじめ

**学習の概要をつかんでおくことで、
在籍学級での学びの際に、頭の中で
知識や思考がつながって活性化される**



考えてみましょう



在籍学級の学びにつなげるためには…



「順序立てる」「比較する」
「分類する」「関係づける」
「推論する」など、思考の際に使う言葉

教科学習参加に必要な言葉

日本語

どのような
日本語を
学ばせたいのか？

目的

どのような資質・能力
(日本語の力を含め)
を身につけさせたいのか？

児童生徒の実態把握

単元のねらい(教科と日本語)
各学年をつなぐ系統的な指導

発問の工夫 板書の工夫
ワークシート等の工夫
学習の展開や形態の工夫

個別最適な学び ↔ 協働的な学び

授業構想

どのような教材、授業展開
で学ばせるのか？



スキル・ICT活用

教師がどんなスキルで支援し、
どのようにICT(1人1台端末)を
有効活用していくのか？

「視覚化」
「焦点化」
「体験化」
「動作化」
「具体→抽象」

理解/記憶/表現/情意/自律支援

環境作り

子供が安心して学ぶことのできる
環境をどのように作っていくのか？

学級担任
教科担任
との連携

保護者や
地域との
連携

多文化共生
自己有用感

幼保小中高の
学びの連携

学習の見通し

キャリアサポート

学校・学級の温かな雰囲気づくり

支援から自律へ

子供たちが将来、地域の一員として
主体的に生きていくことができる

